

闊歩して詩人にならうねこじやらし

藤田湘子

この句とあわせていつも思い出すのは、「闊達な詩^{うた}どころ」を提唱した、ポジティブな湘子像であった。風に吹かれるねこじやらしを見るたびに、そうだ、大股で元気に歩いて、詩人にならう、と思つたものだつた。

でも、詩人はそもそも、そんなに健全な精神の持ち主ではないのではないか。ともすれば小さくなる歩幅や下向いてしまう心を鼓舞して、意識的に物事の明るい側面を見つけていこうとする意識の表れ、七十歳の自分自身へのエールだつたのではないだろうか。そう思えば、「闊歩して詩人にならう」という言葉はいかにも湘子らしい、前向きの含蓄にとんだ詩句であると思う。「ねこじやらし」と照応して、この句の味わい深さとなつた。